

調査レポート

2015年1~3月期のGDP(1次速報)予測

5月20日に公表予定の2015年1~3月期の実質GDP成長率は2四半期連続でプラスとなったと予想されるが、前期比+0.3%(年率換算+1.1%)と緩やかな伸びにとどまったようだ。景気は持ち直しているが、その足取りは重たいままである。この結果、2014年度の実質GDP成長率は前年比-1.1%と5年ぶりのマイナスになったと見込まれる。

個人消費は、反動減の一巡や実質賃金の減少幅縮小を背景に前期比でプラスが続くが、伸びは小幅にとどまっている。設備投資は、企業業績が改善していることを受けて4.四半期ぶりに増加に転じたと予想されるがプラス幅は小さい。公共投資は2013年度の補正予算の効果一巡などから前期比マイナスに転じたと考えられる。一方、輸出、輸入とも増加したが、輸入の伸びが輸出の伸びを上回ったため、外需寄与度はマイナスとなったようである。

名目GDPは前期比+1.7%(年率換算+6.8%)、GDPデフレーターは前年同期比+3.8%と予想する。

	2013年 10-12	2014年				前期比(%)
		1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
実質GDP	-0.3	1.3	-1.6	-0.7	0.4	0.3
同(年率)	-1.2	5.1	-6.4	-2.6	1.5	1.1
同(前年同期比)	2.3	2.4	-0.3	-1.4	-0.8	-1.8
内需寄与度(*)	0.2	1.6	-2.7	-0.7	0.2	0.4
個人消費	-0.2	2.2	-5.0	0.3	0.5	0.2
住宅投資	2.6	2.4	-10.3	-7.0	-1.2	3.8
設備投資	1.3	5.9	-5.0	-0.2	-0.1	0.4
民間在庫(*)	0.0	-0.5	1.4	-0.8	-0.2	0.2
政府最終消費	0.1	-0.3	0.4	0.2	0.3	0.2
公共投資	0.6	-2.2	1.1	2.1	0.8	-2.0
外需寄与度(*)	-0.5	-0.3	1.1	0.1	0.2	-0.1
輸出	-0.2	6.5	-0.3	1.5	2.8	2.0
輸入	3.0	6.9	-5.3	1.0	1.3	2.5
名目GDP	-0.1	1.4	0.3	-0.9	1.0	1.7
同(年率)	-0.3	5.6	1.2	-3.5	3.9	6.8
同(前年同期比)	2.0	2.5	1.8	0.6	1.6	1.9
GDPデフレーター (前年同期比)	-0.3	0.1	2.2	2.0	2.4	3.8

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質GDPに対する寄与度
(出所) 内閣府「四半期別GDP速報」

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 小林 真一郎
 〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2
 TEL: 03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

実質個人消費（前期比+0.2%）

個人消費は、駆け込み需要の反動減の動きが一巡したことに加え、物価圧力の後退や名目賃金の底打ちなどによって実質賃金も増加基調に転じているため、個人消費は緩やかな増加基調にあり、前期比でプラスが続いたと予想される。ただし、新車販売台数の低迷などもあり、増加幅は小幅にとどまった模様である。

実質住宅投資（前期比+3.8%）

駆け込み需要の反動で大きく落ち込んだ住宅着工件数がすでに下げ止まっており、遅れて変動する住宅投資も増加に転じたと見込まれる。

実質設備投資（前期比+0.4%）

企業業績の改善を背景に、4 四半期ぶりに前期比で増加に転じたと予想される。資本財（除く輸送機械）の出荷の伸びも増加基調にある。ただし、企業の設備投資に対する慎重な姿勢は維持されており、緩やかな伸びにとどまった可能性がある。

実質在庫投資（前期比寄与度+0.2%）

内需の弱さを反映して生産段階で在庫が積み上がっており、在庫投資のGDP成長率に対する寄与度は3 四半期ぶりにプラスに転じたと考えられる。

実質政府最終消費支出（前期比+0.2%）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要が増加基調にあることから、引き続き前期比で増加したと思われる。

実質公共投資（前期比-2.0%）

2013 年度の補正予算による押し上げ効果がすでに一巡しているうえ、2014 年度の補正予算による押し上げ効果は小規模かつ本格化するまでには時間がかかるため、公共投資は前期比でマイナスに転じたと見込まれる。

外需（前期比実質寄与度-0.1%、実質輸出：前期比+2.0%、実質輸入：同+2.5%）

海外景気の緩やかな持ち直しを受けて輸出数量は上昇基調にあり、外国人観光客の増加によりサービス輸出も堅調に増加したと見込まれ、実質輸出は前期比で増加が続いたと予想される。ただし、実質輸入の伸びが実質輸出の伸びを上回っており、外需の実質GDP成長率に対する寄与度は-0.1%と4 四半期ぶりにマイナスとなったと考えられる。

GDPデフレーター（前年同期比+3.8%）

GDPデフレーターは、消費税率引き上げの影響による押し上げに、原油価格下落によって輸入物価が大幅なマイナスになっている影響が加わり、前年比のプラス幅が急拡大したと予想される（季節調整値では前期比+1.4%）。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。